

2023/12/8-11 足踏みろくろで器作り NPO大自然のひろばin佐久

8月から準備を進めてきた「足踏みろくろで器づくり（白樺）」の提案者（言い出しっぺ）はみゆちゃんで、それを実現するために、9月から器作り下見・足踏みろくろ作り・材料の調達・参加者募集活動・講師依頼・講習企画・計画・実施と大まかにその経緯を示します。

- 1 8月のグリーンウッドワーク合宿で足踏みろくろについてみゆちゃんから話を聞く
- 2 9月9日から10日に中津川グリーンウッドワークベース、原さんの一泊二日講座に参加して足踏みろくろで器を2個（ブナと山桜）挽く。（詳しくはレポート参照）
- 3 8月下旬、諏訪の後町さんに器の材料白樺を依頼（伐採があったら）10月受け取り
- 4 10月14日から15日 福島県古殿町のクラフトハウス井丸さんの工房で足踏みろくろで器を挽く（ホウノキと山桜）これで器は4個目

★足踏みろくろ2台を制作することにして、構造や設計について検討を始める。

井丸さんにフック1セット・Point2セットを注文（フック7千円 Point4千円）

- 5 10月22日、NORAで足踏みろくろの材料（ベット）にする桧の太鼓落とし材を調達（2千円）3m(1800mmと1200mmの2本にチェーンソーで切断）
- 6 10月26日から27日 東御市の尾方さん工房で足踏みろくろの制作（ベット・ポペット・ツールレスト・脚など）して、動力部分は次回
- 7 11月11日 町田でグリとグリーンウッドワークまつしろさんが主催する足踏みろくろ講座に原さんが講師としてくるので、ロクロの組み立てを手伝い、構造を再確認した。
- 8 11月25日から26日 福島県古殿町のクラフトハウス井丸さんの工房で器挽きのフック（刃物）基本三点セット（外挽き・内挽き・芯切り）を鍛冶屋で制作。
- 9 11月27日から29日 東御市の尾方さん工房で足踏みろくろの制作（トリドル・ツール受け・バンジー部分など動力系統など）して、二台完成。山荘に運搬。講座の準備が完了

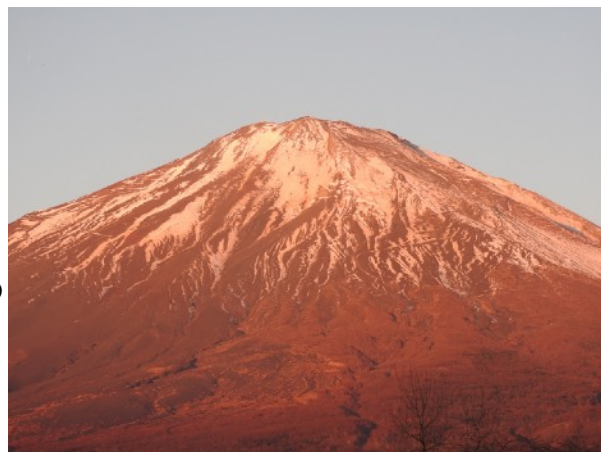
募集後直ぐ8名で満員になっていましたが、2名欠席で、6名（女性4／男性2）の参加で実施

12月8日（金）6時頃松田の家から山荘へ、日の出前少し明るくなってから出発した。御殿場あたりで夜明けの富士山を眺める。最近は夜の運転は辛い（あまりよく見えない）ので出発が遅くなってしまった。途中、20号線甲府を通過するのに渋滞があり、所要時間4時間。

11時頃に山荘に到着、ログハウス・ホールの清掃を行う。ホールは掃除機だけで十分だがログハウスは床に白いカビがあり、掃除機と拭き掃除が必須だったので、3時間ほどかかった。（ログハウスは換気が必要）

講師の原さんが何時頃到着するかmessengerで確認、ナビの表示では16時ごろになるとメールが届いたので、食料などの買い出しに出ることにした。14時に山荘を出発して、つるやで買い出し。予定どおり2時間以内で山荘まで戻り、食材の確認と、各日ごとに食材をカゴに分けて風呂場に保管。肉類などは冷蔵庫に保管。

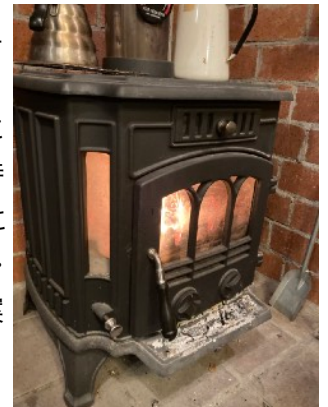
暗くなる前に原さんが到着したので、大自然のひろばを案内して施設を見学していただく。





ホールにロクロを組み立てることにした。ホールの真ん中を開けるように、ロクロをくの字に並べて、6台が無理なく稼働できるように設置できた。組立と動作確認に約70分。外は真っ暗になっていた。原さんが早く来てくれたので、明るい内にロクロをホールに運び入れて、組み立てられたので、助かった。

準備が完了したので、ログハウスに移動して夕食と講座の打ち合わせ。資料として「足踏みろくろ名称図」「参加者プログラム」「運営マニュアル」など、その他に食材表や駐車表。運営マニュアルを確認しながら、9日は6時ごろに起床して7時に朝食（荒木さんも一緒）チェーンソーなどの準備を行い、8時ごろに約束の場所（骨董や）まで参加者の迎えに出て、車を誘導。指定場所に駐車したら個人装備を各部屋に運んでから屋外で開会式・自己紹介・講師紹介・場内（キャンプ場・倉庫2棟・ログハウス・木工作業所・ホールの順で）を案内してから講師の原さんに交代して講習開始。打ち合わせはこのぐらいにして、お互い情報交換して23時に就寝。



12月9日（土）4時30分起床 快晴 0℃ 室内15℃ 暖かい朝

薪ストーブを焚いて、ほうじ茶を飲みながら今日から始まる足踏みろくろで器挽きのプログラムをもう一度確認。ホールや木工作業所倉庫などに準備する道具類（野書きコンパス・鉛筆B2・楔・フロー・水準器・マレット・・・）をメモして確認。お茶を二杯飲む頃にはリストも完成して、頭の中で置き場所を考えながら、白樺を足踏みろくろに乗せるまでをシュミレーション。

頭の整理が出来たところで、次は骨董店（まるよし）から車の誘導と車列の順序を駐車場所に合わせて駐車表に記入。これで、お迎えの準備も完了しました。



そろそろ原さんが目覚める頃（6時）薪ストーブの前にお茶を入れて2人で雑談。みゆちゃん到着！駐車場所の確認と個人備品をホールロフトに移動させるようにお指示して、本人は「お掃除します」と言っていました。前日に終わっているのに、「薪ストーブを焚いてホールを暖める」ようにお願いしました。7時に3人で朝食（ホットサンド・キャベツ・ハム・トマト・チーズ）を食べて、それぞれの準備作業を行いました。私はチェーンソー2台（STEAL261 193）と丸太切り台・燃料・オイルなどを準備して、試運転。



原さんはホールで講習の準備、みゆちゃんはホールの薪ストーブを焚いて受入準備。8時頃に倉島さん・岡村（おかめ）さんがハスラーで到着。早く（1時間前）着いたので、大自然のひろば道案内を見ながら、星尾林道から側道を上がってくれました。駐車場所に案内して、個人装備をログハウスとホールに運ぶようにお願いしました。8時10分に待ち合わせ場所に出発して、3人（篠原・倉林・下島）と会い、大自然のひろばへ誘導。各自駐車スペースをお知らせして、個人備品を宅内に運んでいただきました。参加者の内2名がこの施設を使用したことがあるの



で、お手伝いいただきました。

8時30分頃から（30分早く）開会・自己紹介・講師紹介・参加者用プログラムと「足踏みろくろ名称」を配付して、簡単な説明を行いました。次に場内の案内（4000坪）キャンプ



場・ファイヤーピット・倉庫・ログハウス・木工作業所・キャビン・ホール。雨水の給水システム（生活用水）などです。

倉庫前でオガ（大鋸）5丁を出して、みんなで大きさや用途を確認。このオガは5月ごろに骨董店（まるよし）で購入。まるよしは骨董道具のオークションを主催しているので、そこに集まった物を6丁、1万円で購入しました。刃の研ぎ方を習得して、子どもたちのワークショップや、高級材の縦引きに使用する予定です。案外軽く、力がなくても挽けるので楽しみです。



白樺の玉切り、9月に諏訪で伐採した白樺は水分を含んでいて、1人では持てないほど重量があります。直径は230mmぐらい、大型の器が出来ます。玉切りする台に乗せて、STEAL261で直径と同じぐらいのサイズ（長さ）に切っていきます。最初に、チェーンソーを扱うなら安全対策として防護パンツ・伐採用ヘルメット・手袋・上着などを着用して、作業に耐えられる装備を準備すること。チェーンソーで切創事故を起こすと、重症になるので（身体障害者）準備・安全確保・距離など安全管理について説明してから玉切りしました。

原さんに引き継いで、ここから足踏みろくろに乗せるまでの工程（野書き・斧での形成・マンドリルを打ち込む）は2人組で行います。野書きコンパスで器の内側に円を描いて、中心点を鉛筆



でしっかり描きます。ここにマンドリルを入れる穴をドリルで（21mm）あけるので重要な部分です。余分な部分を斧で削り、四角から八角そして16角、36角と外側を円に近づけて削ります。木工作業小屋に移動して、作業台に材料をクランプで固定して、水準器で平行を確認したら手回しドリルで中心に穴を開けます。この時に2人組で真っ直ぐあけるように前後左右を確認して声をかけながら垂直に穴を開ける。マンドリルを打ち込んで完成。（緩み止めの紙を挟む）



11時30分頃に材料の形成とマンドリルの打ち込みが完成して、いよいよ足踏みろくろに材料を乗せて、削り出します。ホールに移動してロクロに材料を固定します。まずは外側から削るので、マンドリルにひもを内側に内側に2回絡めて、左側のPointにマンドリルを刺して、右側のPointに外側の中心を刺します。



まず。材料がロクロに真っ直ぐ平行に設置されているか確認するには、器をゆっくり回して。ベットとマンドリルが平行に設置されているか目視で確認します。ずれを少しずつ直して、平行に回る所を探り、確認できたらポペットをマレットで強く打ち込み固定します。そして。ポペットの固定楔（ベットの下）もマレットで打ち込んでしっかり固定します。ここが緩んでいると、器が落下してしまいます。



白樺の玉切り、斧での形成・マンドリルの設置・ろくろに乗せる工程までで午前中は終了。昼食は野菜とシーフードのちゃんぽん麺。ログハウスに移動してみんなでいただきました。



午後からは外側を中心から20mm繰りの所に丸い高台を作り、フックで縁まで削り進みます、これを何度も繰り返して、きれいな曲線に仕上げます。どんぶりにするのか？皿にするのか？サラダボールにするのか？形を頭に描いて削ります。外側が終わったら、内側です。

ホールにはシュシュという、削る音がリズムカルに響いて、みんな夢中になって削っています。刃先に神経を集中するので体は固まってしまい、腕・脚がつりそうになります。各自、適当に休

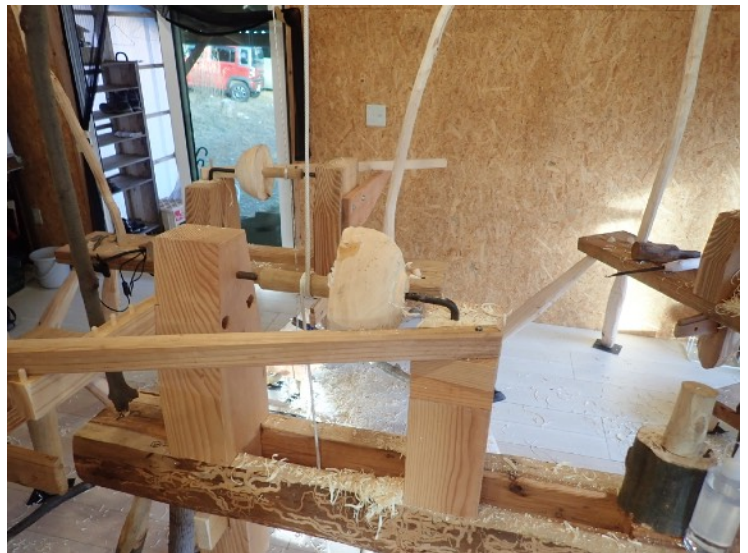
憩をしながら無言で削っていました。





私は二つ目（翌日）の器を作るために、白樺を玉切りにしました。少し小ぶりですが12個の器が出来ます。そしていよいよ自作の足踏みろくろをホールを中心に組み立てました。皆さんよりも3時間遅れなので、追いつくのが大変です。ろくろは小型ですが、しっかり自立してブレがありません。削りやすいです、バンジーのゴムの弾力も良いようです。

ロクロを稼働させてみると、いくつかの改良点も分かりました。帰ってから改良点のまとめを作ります



13時から16時まで15時に休憩を入れて内側を挽き、芯切りまでの作業。温泉組（4名）は一万里温泉へ出かけて（120分）リフレッシュ！居残り組の2人はゆっくりと仕上げ作業まで終えて、温泉組が帰ってから芯切りと器をロクロから降ろしてマンドリルを折る作業。木目と直角に力を加えるとポキリと折れる。全員が無事に1つ目の器完成です。

19時からログハウスに移動して寄せ鍋で夕食。



夕食後もホールに薪ストーブを焚いてそれぞれ好きなことをしました。まちさんが持って来た小さな木彫り・ムーミン・後町さんの奥様・トムテなど、作り方や色づけなど教えていただきました。



後町さん人形は松田に帰ってから諏訪に送って、ご夫婦の元に届きました。ホールは断熱が良く、薪ストーブも高性能なので暖かいです。ロフトは24℃ぐらいまで室温が上がり心地よいです。



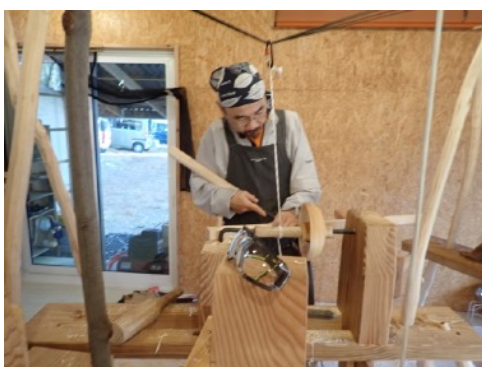
23時に消灯！ログハウス・ホールのそれぞれの部屋でゆっくり休みました。凍結などの心配をしていた雨水システムも二台ともに、稼働していて、トイレなどの生活用水を供給してくれています。今年は寒波の南下が遅れているので、昼間に陽射しがあれば屋外でも活動が出来るので助かりました。12月の晴れた日は虫もいないので、快適な野外活動が出来ます。

12月10日(日) 5時起床! 0℃ 室内15℃ 快晴

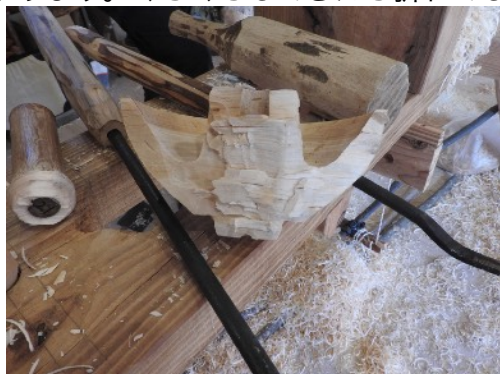
薪ストーブを焚いて、ほうじ茶を二杯。昨夜から薪ストーブにかけて作っている「ポトフ」が出来上がりました。クラフトハウスの井丸さんから頂いた小ぶりのジャガイモは皮付きで丸ごと入っています。人参・キャベツ・ニンニク・ウインナー・ベーコンも良く煮えて、調味料なしでも美味しいスープが体にしみこむようです。朝食は7時から全員ログハウス集合です。



8時から講習再開、二つ目の器に挑戦します。講師の原さんは、少し遅れている人、参加者から質問があるとアドバイスと伴走をしながら講習を進めます。ホールにはシュシュというフックで白樺を削る音だけが響いていて、音を聞いているだけで上手に削れているか分かるようになってきました。休憩は敵意、各自で珈琲やお茶を飲んだり、おしゃべりしたりしていました。



皆さん夢中になってしまうので、休憩時間は強制的時間を決めて休まないで、オーバーワークになります。昼食はタマネギとニンニクたっぷりのカレーうどんにフランスパン（これが良く合う）１２時から１３時まで昼食休憩を取って、最後の仕上げ作業に入ります。内挽きで器の縁を削り、マンドリルの刺さっている芯を20mm-15mmぐらいまで細くけずります。ぐらぐらしてきたら折れてしまうので、慎重に確認しながら削ります。

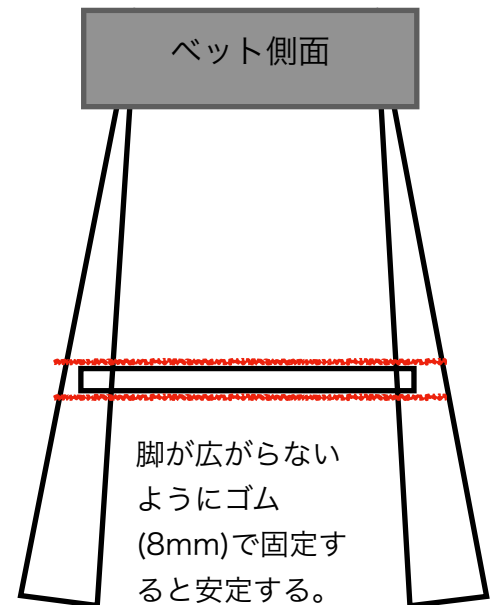


早い人は１４時頃１５時には全員削り終わり、マンドリルを器から折って、記念撮影。ホールの清掃、足踏みろくの解体と積み込み、個人備品の撤収作業など、参加者が手分けして１６時までには終了しました。最後に、講習の感想などを共有して解散！皆さん帰路につきました。私はもう一泊して、冬季閉鎖の作業をしてから１１日午前中には松田の家へ向かいました。



足踏みくる改良点

- 1 レスト受けが短かった。 最初の長さ700mm-800mm
- 2 ポケットとレスト受けを固定するビスは爪つきナットを埋め込むようにしたい。
(移動時に邪魔になる)
- 3 トリドルの後ろ側固定はロープで右側（内側）の脚にロープで固定すると安定して良い
- 4 トリドル前側の脚に固定している棒はもう少し上部に移動すると良い
- 5 脚の固定（横棒）は小径の枝だを差し込む形にして、ゴム（赤）で固定



参加者のふり返りから(2023/12/24) 4名の参加者から回答がありました。

1 運営について

(1)事前連絡・準備について(大変良かった 良かった 普通 悪かった)

- ・ 詳細な計画（プログラム）が付いていて助かった
- ・ 届いてない情報に対して読むように言われ、あまりいい気分がしませんでした
- ・ 初めての場所でしたが、不安なく伺うことができました
- ・ 特に問題はなかったかと思いますが、水や寝床の準備などがもう一つイメージが付きづらかったというのが正直なところです。
- ・ 非常に快適で万全だったのですが、事前の案内はやや大仰というか、脅しすぎる印象もあったのかなと思っています（ホテルとは違うのでちゃんと準備してほしいということだったのかもしれませんが）。

(2)施設・会場について(大変良かった 良かった 普通 悪かった)

- ・ とても居心地が良い山小屋でした。キャンプもしてみたいです。
- ・ 少し手狭で、足場がなく不安だったこととろくろの間を歩くとき、刃物が危なく思いました
- ・ とても素敵な場所ですね
- ・ 施設・会場は思った以上に快適で、申し分ありませんでした。
- ・ 森の雰囲気なども含めて素晴らしい環境だった反面、私自身のグリーンウッドワークの実践のための場としては、佐久との距離感は簡単に利用できる状況にはないというのが「大変」を外した理由です。

(3)講師について (大変良かった 良かった 普通 悪かった)

- ・ この数の足踏みろくろ準備する熱意がすごいです。
- ・ 一人ひとりの状態に応じて対応してくださりありがたかった
- ・ 原さんの足踏みろくろに対する熱意がひしひしと感じられた2日間でした。大変感謝申し上げます。
- ・ フックの使い方のコツがまだ十分にわかっていないまま2日間を終了してしまいましたが、他の人たちが温泉に出ている間のほぼマンツーマン指導で少し掴めたところがあつたのはありがたかったです。

(4)参加費用について(安すぎる 普通 高額だった)

- ・ この金額で実施するのは大変だと思いますが、参加者とすれば非常に助かりました。
 - ・ 個人参加で、14000 円～16000 円 3 食 6000～4000 円と考えると普通なのかな？
- そこまでの交通費などもかかっているから、安すぎるとは思えないかな
- ・ 本気で技術（今回は足踏みろくろ）を習得しようとするなら高くはないと思いますが、体験してみようという感じでは安くもないと思うのかもしれませんが。
 - ・ 今回参加してみて、何度も（何十回も）参加して、継続的に実践していかないとモノにはならないことを思うと、どれだけ本気で足踏みろくろにのめり込めるかは、やや逡巡するところもあります。

(5)食事について(大変良かった 良かった 普通 悪かった)

- ・ポトフもカレーうどんも全て味付け、ボリュームともに最高でした。御馳走様でした。
- ・やはり量が多かったと思います サーブし切らず鍋に残ってものもありましたし...味は最高👍でした！
- ・とてもおいしかったです。
- ・おいしい食事をありがとうございました。

(6)運営タイムスケジュールについて(大変良かった 良かった 普通 悪かった)

- ・少し、忙しかった。もう少し小さい器で良かったかもしれない。
- ・初日、挨拶から会場案内は予定外で、午前中から予定が押してしまったと思います
- ・1泊2日の合宿形式で開催できたことで、忙しくはあったものの充実した2日間として実施できました。
- ・通常やらないという、丸太を切り割りして半円状の粗どりするところから始まる一連の作業工程は、（その分足踏みろくろの作業時間を削ることになったとしても）非常に有意義でした。

(7)運営にに対するご意見(大変良かった 良かった 普通 悪かった)

- ・お一人での対応となり大変だったと思いますが、特段の問題もなく、快適な2日間となりました。ありがとうございました。

2 あなの心情について

(1)新しい発見や気づきがありましたか

- ・足踏みろくろが初めてだったので、新しい発見だらけでした。足踏みろくろの構造、刃物の使い方、削る感覚、キャッチなど・。とても難しいということが分かりました。
- ・やっぱりろくろは楽しい！と思いました。
- ・足踏みろくろは思っていた以上に刃物の使い方に特徴があり、簡単には使いこなせないことを知れたのは、よくも悪くも大きな発見となりました。
- ・知人から、足踏みろくろに慣れるのには、器挽きだけでなくイスの脚なども挽いてみると、かなり感触が違うのでよいよとアドバイスもいただきました。これからいろいろと試してみつつ、経験を重ねていければと思っているところです。

(2)参加者とのふれあいのなかで一番印象に残っていることは

遅くまで夜練した後のビールが良かったです。

- ・夜活では、ろくろにさわらず原さんには失礼だったかと思いますが、まちさんの作品を通して、50000000000003 への白樺の材への感謝の気持なども皆で共有でき、下島さんの面白い作品も見られ、良い時間でした
- ・皆さんがそれぞれ好きなことに取り組んでいる姿を見たり話を聞いたりして、素敵だなと思いました

- ・ふれあいではありませんが、他の方々の進捗や削りカスの様子などを見つつ自分のやり方を省みることで、講師の話や実演（簡単そうにこなしてしまう）だけでない、器挽きの勘所を得る一助になっていたことを思います。
- ・作業終了及び夕食後に宿泊棟の1階で（足踏みろくろ以外も話も含めて）いろいろと話ができたことも印象に残っています。
- ・倉林さんのミニトムテやムーミンキャラクター、（面識はありませんが）後町さん人形などは素晴らしかったです。参加者各位がこれまで作ってきたもの等を紹介するようなコーナーを設けて自由に見られるようにするとおもしろかったかもしれないと思いました（自己紹介の時間などを取るとまたスケジュールが押すので、食事時や隙間時間などの話のネタになるような紹介の仕方でよいのかな）。

(3)あなたが「あれはいいな」「素敵だな」と思った他のメンバーの行動はありましたか？

- ・下島さんのミニ削り馬の紹介が良かった。
- ・参加者が皆、率先して片付けや掃除をしていたところです。
- ・それぞれあくなき探求心をもって臨んでいる様子が伺えたのは良かったです。
- ・倉島さんが、白樺の端材でちゃっちゃとスプーンを彫り上げて、完成した器とセットにしていたのも素晴らしかった。

(4)あなたが一番良い影響を受けたのは誰からですか？ またそれはどんな影響ですか？

- ・荒木さんは、その明るいキャラから会の潤滑剂的役割をはたして、とても良かった。
- ・原さんが、あれだけの数のろくろを用意して、参加者の器を仕上げてしまうのはすごいと思いました。
- ・“影響”というと、講師の原さんの熱意に尽きますが、高森さんや荒木さんのグリーンウッドワークへの想いも（この講座を通してだけではないけど）よい刺激になります。

(5)この研修でもっと知りたかった事がありますか

- ・どのような角度で刃をあてたらいいか、もっと知りたかったです。
- ・今回ということではありませんが、（今後）樹種の違いによる器挽きの違いなども知れるとよいと思っています。

(6)来年はこんな研修をしたいというご希望があれば箇条書きにしてください

- ・フックツールが作りたい
- ・とても気持ちいいところだったので、屋外でのんびりグリーンウッドワークができるような講座
- ・フィールドの広さと材料調達などを生かして、匙フェスのような集客イベントを催してみるのもおもしろいかと思います。

感想など

- ・顔見知りの参加者の皆様に囲まれて、とても有意義な講習を受けることができました。やはり、自分でろくろとフックツールを作って練習をしないと難しい事が分かりました。ただ、やはり自分で作るためにはかなりの勢いが必要ということも感じます。あと何回か練習したいと思います。
- ・楽しい時間が過ぎてよかったです。個人的には、いじられすぎて(構われすぎて)、そっとしておいてほしい思いもありました。ステキな時間をありがとうございました
- ・ 2日間、本当にお世話になりました。準備など大変だったと思いますが、おかげで楽しく講座に参加することができました。また、機会がありましたら、参加させてください。どうもありがとうございました。
- ・今回の講座と直接の関係はありませんが、自由に集まって削りつつ、互いに刺激を与えられる（スプーンクラブのような）場として、継続的なものづくりを实践できる場所を見つけたいと思っている今日この頃です。
 - ・いくつかのグループ等に参加しつつ、活動内容や運営方針、フィールドの特性などに応じてできることできないことがある中で、それぞれなりに楽しんでいます。
- ・佐久でのグリーンウッドワークに関しても、そうしたさまざまなオプションの中の一つとしてよい機会を得られたことは、とても喜ばしいことでした。